

2月6日 ユマニチユード研修会(3頁参照)  
イブ・ジネスト先生・本田美和子先生においで  
いただきました



### 3月号

平成 29 年 3 月 1 日発行  
【発行者】〒168-8510  
東京都杉並区高井戸西 1-12-1  
社会福祉法人 浴風会  
TEL (代表) 03-3334-2101  
<http://www.yokufukai.or.jp/>  
【振替】00140-7-122882  
【編集者】露口 長  
【印刷所】株式会社サイド・ビー



## ユマニチュード創始者イブ・ジネスト先生を迎えて 認知症介護研究・研修東京センター センター長 山口晴保

平成29年2月6日(月)16~18時に、東京センター大会議室において、「ユマニチュード」(あなたは私の大切な人です)という研修会を開催しました。講師は、ユマニチュードを日本に導入した本田美和子医師(国立病院機構東京医療センター)と、フランスより来日中のイブ・ジネスト先生(ジネスト・マレスコッティ研究所長)という最高のメンバー。このため、浴風会各施設から150名を超える参加がありました。

フランスで生まれたケアの理念と技法の集大成であるユマニチュードをわかりやすく話していただき、京極理事長も頷きながら聞き込んでおられました。そして、「see(見る)じゃなくてgaze(見つめる)だね」と理事長がおっしゃいました。その通りなのです。「相手の目を見つめる(アイキャッチ)」「話しかけ続ける」「やさしく触れる」、そして「立たせる」がユマニチュードの4本柱なのです。

ジネスト先生は、いつもの赤いサロペット(胸当て付きズボン)で壇上に立ち、身振り手振りで熱演を振るいました。冒頭ではフランス人の挨拶を紹介し、当センターの認知症介護指導者研修の受講生が壇上でハグと頬にチュウの歓迎を受けて笑顔になりました。重度認知症となり、声も発せず手足も動かさない「人間らしさを失った状態」の人が、ごく近いところからやさしい声かけとタッチケアと視線と笑顔で「あなたは私の大切な人です」というメッセージを送り続けるユ



マニチュードのケアによって、しやべりはじめ、そして手足を自分で動かすといったように「人間の状態」に戻ることを、ビデオで示しました。画像の説得力はすごいです。ユマニチュードのパワーに、聴衆が驚きました。

ユマニチュードの哲学を解説するに当たり、ジネスト先生はルーマニアのチャウシエスク政権時代の出来事を取り上げて、赤ちゃんの発達には「愛」が不可欠であることを示しました。チャウシエスク大統領は、人口を増やそうと1966年に4人産むまで中絶禁止という法律を作りました(後で調べましたらコンドームの販売も禁止したそうです)。このためたくさんの子供が生まれましたが、生活苦から何万人もの子供が親に捨てられました。その孤児たちを育てる環境は劣悪で、愛情をほとんど注がれずに育った子供たちは、コミュニケーション能力の乏しい自閉症類似の症状を示したので



です。人間の発育には「愛」が必要なことを示すエピソードです。このように、ユマニチュードには哲学があります。それはケアを受ける人を愛すること、そして「あなたは私の大切な人です」というメッセージを常に与え続けることです。そして、この理念を具現化する様々な技法を有するのがユマニチュードです。その技法は気配りや心遣いにあふれている「おもてなしのこころ」です。これは恋愛術と一緒ですね。恋愛も「あなたは私の大切な人です」と伝え続けると、落ちます……たぶん。

本田美和子医師はジネスト先生が英語で話すことを日本語に通訳してくれました。二人の息が合っていて、同時通訳のように途切れなく進行しました。本田先生はユマニチュードに出会うまでは認知症の素人でしたが、ジネスト先生の言うことを日本語で代弁しているうちに、いつの間にか認知症ケアのエキスパートになりました。もしユマニチュードをもっと学びたいという方、本よりも、「ユマニチュード」(優しさを伝えるケア技法)(デジタルセンタージョン社)というDVDがお奨めです。施設で購入してスタッフ全員が見ると良いと思います。ユマニチュードの哲学に触れた



い方は、「ユマニチュードという革命」(誠文堂新光社)という本に原点が書かれています。研修会には京極理事長はじめ、百瀬常務理事や工藤看護部長など多くの方にご参加いただきました。浴風会でもユマニチュードの考え方「あなたは大切な人です」が浸透することを祈念します。

「あなたがいなくて嬉しい」と言ってください。意味は考えなくて良いですから。

